



学びの高嶺

校訓 感謝・努力・友愛

北九州市立高見中学校
学校だより 第16号
令和6年12月2日(月)
校長 若松 英昭

渡辺知子一座スクールコンサート

11月18日(月)に、令和6年度スクールコンサート渡辺知子一座「生命が光る ～決して決して決してあきらめない

～」が、本校体育館で開催されました。事前に渡辺知子さんを取り上げた番組を視聴し、午後コンサートに参加しました。渡辺知子さんは、生徒に「生きることと夢をもつことの大切さ」を伝え、音楽を通して豊かな心を育てほしいという願いでこのスクールコンサートが続けられています。

*Let's enjoy
new challenges!*

～準備、実行、そして次へ～

スクールコンサートを鑑賞して 3年1組 I

今回のスクールコンサートはこれから生きていく中で、とても重要なことが学べたと思いました。知子さんの将来の夢を言うときは、「〇〇になりたい」ではなく「〇〇になる」と言う夢に近づくという言葉がとても心に残りました。私は夢があるけど、まだ周りの人に言えなくて自信がないです。でも、このスクールコンサートを聞いて、自分に逃げ道を与えてしまっていたのだと気づけました。夢を叶えることはできないかもしれないけれど、全力でチャレンジしようと思います。

障害があっても明るいレンコンさんは強いなと思いました。手を忘れてきたけど、それを忘れてしまうくらいのすばらしい演奏や生き生きとした表情は、私に元気と命の大切さを教えてくれました。レンコンさんのレストランの話を聞いて、とても胸が苦しくなりましたが、それでも一人でシャワーに挑戦する強い心に本当に心を動かされました。最後のヒマワリの歌は私たちも自然に手が動き出すくらい楽しく、明るい渡辺知子一座のみなさんにヒマワリがとても会っていました。



渡辺知子さん



LENCON さん

スクールコンサートを鑑賞して 2年1組 N

僕はこのスクールコンサートを見て、考えさせることがたくさんありました。僕はちょっとしたことですぐ「無理」「僕はできない」など簡単に言ったりしていました。でも、コンサートを見て、障害を持っている人が障害を持っていない人よりも、笑顔で元気づけさせてくれる姿を見て、僕はすぐにあきらめないようにしようと思いました。

僕は一人の女性の話を聞いてとても驚きました。生まれつき手がなく、足で生活しているという話を聞いて、その人は並大抵の努力では出来ないことをこなすことが出来て、僕はとてもすごいと思いました。僕は今度から簡単にあきらめるのはやめようと思いました。僕は今の生活が当たり前ではないということを頭の片すみにおいて生活していきたいです。そして、このコンサートの演奏を聞いて、とても勇気やパワーをもらいました。一人一人の個性が感じることもできました。本当にありがとうございました。



渡辺知子一座のみなさん



LENCON さんも和太鼓演奏

スクールコンサートを鑑賞して 1年1組 T

渡辺知子一座のスクールコンサートを鑑賞して、僕は少し嫌なことを忘れさせ、心を温めてくれるすてきな曲だなと思いました。

事前学習では、紫斑病やくも膜下出血という難病を患いながらも、あきらめない、思いや夢を追いつける渡辺知子さんを見て、とても感動しました。事前学習を終えて、楽しみにしながら、実際に渡辺知子一座のスクールコンサートを聞くと、渡辺知子さんの美しいボーカルやキーボード、橋本たかしさんのやさしいオカリナ、盛迫ひろしさんの迫力あるドラム、LENCONさんのキレイな歌声、清水涼子さんや葉奈さんの親子での手話や迫力ある太鼓演奏を聞くことができました。曲の終りに話す渡辺知子やLENCONさんの話を聞いていると、LENCONさんの足での演奏や過去について知ることができたけど、僕が一番心に残ったのは、知子さんのあきらめずに「～になる」という話です。そして、最後の曲の前に「きのう、きょう、あした」では、渡辺知子さんの思いや作詞の大石たけしさんの思いを感じ取ることができました。改めて努力やあきらめないことは大切だと思いました。僕も、渡辺知子一座の皆さんみたいに「～になる」と決め、一日一日やみんなに会えることを奇跡だと思い過ごしていきたいです。

令和6年度「中学生の税の作文」

全国納税貯蓄組合連合会『優秀賞』 Sさん 受賞

応募総数435,572編の中から優秀賞に選ばれました。説明では「全国の上位約4.5%の中に入っています」ということでした。また、「高見中学校から応募された作文は大変素晴らしい作文が多くて驚きました」というお話もありました。



全国表彰を受けたSさん

税
この日本の未来を担う私たちへ
この前病院でポスターに目があった。どうやら医療費支給制度の対象が18歳に引き上げられたらしい。あまり意味が分からなかった。加え関心のなかった私はへえ、と思った。この時の私はこの行動が自分に関わる重大な問題と気づかされるなんて思ってもみなかった。
先週税の作文を書くにあたり学校で行われた租税教室で私の印象に残ったのは税の33%が社会保障に使われているということだった。社会保障：知っているように知らなかったの調べてみると社会保障と一口に言っても色々あるそうだ。介護・医療・福祉：数ある中でおやつと思ったものは『子供』だった。私達に関わる社会保障と調べた途端に親近感がわきもつと調べてみて私は驚いた。まず教科書。図書室の本。部活で使うピアノも。そして病院で見た『医療費支給制度』、これは中学生の私だと一医療機関で一月最大でも1600円済むことなのだそう。もちろん全部税金からである。そして身近なことだとごみの収集・道路整備・毎日使う水道でさえも税金。私は開いた口が塞がらなかつた。税金。税金。私達の生活にありふれており、生きる上でかけがえのないものではないか。ここまで調べて私は思った。逆に言えばこんなにも深く関わっている税について知らないのは何とも恥ずべきことではないか。

近年『増税』という言葉がよく耳にする。私は今まで払う税が高くなるなんて嫌だと思っていた。しかし調べてみると感染症の拡大に伴い社会保障を充実させる為の増税だったのだ。増税は私達の豊かな暮らしのために必要だったのだから。しかしこれを知らなかった私は高い税を納めなければならぬという視点でしか考えていなかった。これに気づいた上で日本の大きな課題『少子高齢化』について考えてみたい。これが問題となり支える世代の負担が大きくなる。これが挙げられる。これも初めは嫌だ。と思ったが前述したように水道も医療費の支給もピアノも今働いている世代によつて得られているのだ。私達は将来自分が支えている世代を高齢者として捉えず今まで支えてくれていた世代として考え、大人になるとその世代を支えるという事は、いわば恩返しになる。そう思うとこれは納める税への見方が変わるのではないだろうか。
税は豊かな暮らしにかけがえのないものと分かったがここで終わってはならない。税をどう使うかも重大な鍵で、それを決めるのは政治家、政治家を決めるのは私たち。そう、私達が税の使い道を決めるのだ。三年後私は選挙権を得る。三年後の私がより暮らしやすい社会に貢献する第一歩となる一票を投じられるように税や政治についてももっと考えを深め、日本の未来を担う『立派な納税者』になれるよう生きていきたい。